

吃音のある子への配慮のお願い

小学校・担任の先生へ

保護者から担任の先生へ（言語聴覚士 監修）

吃音（どもり）とは

吃音の3つの症状

- ・ 話しはじめや特定の音を繰り返す（「ぼ、ぼ、ぼくは...」）
- ・ 最初のことばを引き伸ばす（「ぼーくは...」）
- ・ 最初のことばが詰まって出てこない（「.....ぼくは」）

育て方やストレスが原因ではなく、脳のことばを処理する回路の個人差によるものです。本人の意思でコントロールすることはできません。

お願いしたい配慮

やっていただきたいこと

- どもっているときは、最後まで待つて聞いてください
- 音読は事前に読む箇所を教えるなど、準備できる配慮をしてください
- 発表・スピーチは「原稿を見ながら読む」「文章を短くする」などの配慮をしてください
- 友達からのからかいがあった場合は早めに知らせてください
- どもることより話の内容に関心に向けてください

やらないでほしいこと

- 「ゆっくり言って」「もう一度言って」と言わないでください
- 「落ち着いて」「深呼吸して」と言わないでください
- 詰まっているときに先を促したり、代わりに言わないでください
- 音読や発表を無理に続けさせないでください
- からかいやまねを見過ごさないでください

学校での場面別の対応例

◆ 音読・発表（国語・授業など）

- ・ 順番読みの場合は、どこを読むか少し前に教えてあげると心の準備ができます
- ・ 音読では「できなかった」より「最後まで読めた」を大切にしてください
- ・ 本人が「やりたくない」と言っている場合は無理に強制しないでください
- ・ 代替方法（友達と一緒に読む・小さな声でよい等）も積極的に検討してください

◆ スピーチ・発表会・劇

- ・ 一人で発表するのが特に難しい場面です。「みんなと一緒に声を出す」「文章を短くする」「原稿を見ながら読む」などの配慮をお願いします
- ・ 発表を強制せず、お子さんが参加できる形と一緒に探してください
- ・ どもっても最後まで発表させることが本人の自信につながります

◆ 友達からのからかい・いじめへの対応

- ・ まねしたり笑ったりする場面があった場合は、その場でやさしく止めてください
- ・ 事前にクラス全体で「人の話し方を笑わない」ことを伝えておくことが有効です
- ・ 「もし友達からからかいがあったら教えてほしい」と本人に伝えておいてください
- ・ 自己肯定感を守ることがことばの発達においても最も大切なことです

◆ ことばの教室（通級指導教室）との連携

- ・ 通級に通っている場合は、担任と通級担当の先生で情報共有をお願いします
- ・ 通級で取り組んでいることがわかると、通常学級でも一貫した配慮がしやすくなります
- ・ 通級のために授業を抜けることへのフォローをお願いします

【連絡先・相談窓口】

お子さんの名前：

保護者名：

相談先・ST 機関：

連絡先：